

# リハビリテーション・レクリエーション (第1版) 2020年9月27日更新

## ★リハビリテーション・レクリエーションのポイント★

- ・リハビリテーション・レクリエーションは、入居者の日常生活にとって大切な活動です。一方、入居者間で感染が伝播する機会にもなり得るので、感染対策上も安全に実施できるようにしましょう。
- ・特に感染性の高いインフルエンザ・ノロウイルス胃腸炎・新型コロナウイルス感染症などが流行している時期・地域では、参加する入居者・スタッフ双方の健康チェックを強化し、感染の疑いのある方が集団活動に参加しないように注意する必要があります。
- ・リハビリテーション・レクリエーションに使用する設備・物品の清潔な管理にも注意しましょう。

特に感染性の高い、インフルエンザ・ノロウイルス胃腸炎・  
新型コロナウイルス感染症などへの感染対策には、  
リハビリテーションスタッフの協力が欠かせません！！



## ■ 施設全体の管理 ■

- ◆リハビリテーション・レクリエーション実施前に、参加する入居者・スタッフの健康チェックを実施しましょう。**守る!**
  - ※発熱だけでなく、体調異変がある参加者の扱いをどうするか、あらかじめ施設ごとに決めておくことを推奨します。**目標**
  - ※発熱があれば、リハビリテーション・レクリエーションの実施は見合わせましょう。**守る!**
  - ※インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の流行時期・地域においては、呼吸器症状のある入居者については、発熱がなくても他者に感染させる可能性がある入居者として考えます。自室や別の部屋を利用して個別に行うか、他の入居者がいない時間帯に、個別に実施しましょう。**目標**
  - ※ノロウイルス胃腸炎の流行時期・地域において嘔吐や下痢のある入居者については、発熱がなくても他者に感染させる可能性がある入居者として考える。自室や別の部屋を利用して個別に行うか、他の入居者がいない時間帯に個別に実施しましょう。**目標**
- ◆インフルエンザ・ノロウイルス胃腸炎・新型コロナウイルス感染症の流行時期・地域では、外部からの病原体の持ち込みが問題となります。通所の利用者も設備を共用する施設では、可能な限り以下の工夫を行いましょ。 **目標**

★ リハビリテーション・レクリエーションにおいて外部からの病原体持ち込みを防止する工夫 ★

1. 実施する空間（部屋）を分けましょう。通所者と入居者が交わらないように、動線にも注意しましょう。
2. 実施する時間を分けましょう。同じ部屋を利用する際には、使用ごとに十分な換気を行いましょう。
3. 実施するスタッフを分けましょう。同じスタッフが通所者・入居者の両方の担当をする場合には、自身の健康チェックを十分に行い、利用者ごとに手指衛生を実施して、通所者から入居者への媒介にならないように注意しましょう。

◆リハビリテーション・レクリエーションを実施するスタッフも、利用者ごとにこまめに手指衛生を実施できるように、手指消毒用アルコール製剤・個人携帯ポシエットの導入を推奨します。 **目標**

◆リハビリテーションのスタッフにも手指衛生に関する十分な教育を実施しましょう。 **守る！**

◆リハビリテーション・レクリエーションに使用する設備・物品について、手で触れる部位は利用者ごとに拭き清掃しましょう。それ以外の部位は、時々拭き清掃しましょう。 **目標**

※ゲームで使用するボールなど、一度に皆で使用するものを除き、手すりなど、手で不特定多数が触れる部位は、入居者ごとに使用後に洗剤＋消毒薬含有ワイプ（環境クロス）、または清潔な布と洗剤（＋除菌剤入りの製品でも良い）、または消毒用アルコールでよく拭き取りましょう。

**目標**

※レクリエーション用の道具も、毎日の清掃や、汚染時のことを考慮して、拭ける素材のものが便利です。 **目標**

## ■ リハビリテーション・レクリエーションの注意点 ■

◆日常的な実施に関しては特別必要な個人防護具はありませんが、入居者の状況に合わせてマスク・手袋を選択します。（「個人防護具」の項参照）。

※インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の流行時期・地域では、スタッフから入居者への感染を防止するために、マスクを着用しましょう。 **守る！**

※入居者にも可能な限りマスク着用をお願いしましょう。 **目標**

◆リハビリテーション・レクリエーション前に、スタッフは手指衛生（アルコール消毒または手洗い）を実施しましょう。 **守る！**

◆入居者の唾液・飛沫・鼻水などが手に付着したら手指衛生を実施しましょう。 **守る！**

◆入居者の口を拭く、鼻水を拭く、目やにを取る、などをしたら手指衛生を実施しましょう。明らかに手指に汚れが付着した場合には、石けんによる手洗いが必要です。 **守る！**

◆終了後にも手指衛生を実施しましょう。 **守る！**

## ■ インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症に関する注意点 ■

- ◆ インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の流行時期・地域では、集団で行うリハビリテーション・レクリエーションは、時々窓やドアを開け、換気の良い状態で実施しましょう。 **守る!**
- ◆ インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の流行時期・地域では、発声訓練等の飛沫が発生する内容を実施する場合には、以下のような点に注意して行いましょう。 **守る!**

### ★ 飛沫が発生する訓練における注意点 ★

- 集団で実施する場合には、一度に実施する人数を可能な限り少なくし、参加者の組み合わせはなるべく毎回固定しましょう。
- 訓練を実施する部屋は、休憩時間等には窓やドアを開け、十分な換気を行いましょう。
- 発熱・呼吸器症状がある入居者の訓練は個別に実施します。体調不良者が集団訓練に参加することがないように、実施前の健康チェックを徹底しましょう。
- 集団で実施する場合には、参加者の距離をなるべく空けましょう。また、入居者同士が近距離で向かい合わないようレイアウトを工夫しましょう。
- 訓練指導者は、可能な限り、入居者の飛沫を直接浴びない位置で指導を行いましょう。
- 訓練指導者が口の動きを見せなければならない場合には、マスクを着用していない指導者が発声せずに口の動きを見せ、もう1人の指導者がマスク着用の上で発声して声を当てる方法も検討しましょう。
- 訓練を行う部屋は、使用ごとに換気をし、手で直接触れる場所は、洗浄剤+消毒薬含有ワイプ（環境クロス）、または清潔な布と洗剤（+除菌剤入りの製品でも良い）、または消毒用アルコールで拭き取りましょう。
- スタッフは、とにかくこまめに手指衛生を実施しましょう。
- カラオケなど大声が発生するレクリエーションは当面避けることを推奨します。

- ◆ 感染（疑い者を含む）により隔離された部屋内でリハビリテーション・レクリエーションを実施する際にも、スタッフは必要な個人防護具＜手袋・マスク・フェイスシールド（またはゴーグル）・袖付きガウン（またはビニルエプロン）＞を着用して行いましょう。 **守る!**
- ◆ 施設内で、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症が発生した場合、一時的に集団でのリハビリテーション・レクリエーション（特に発声訓練等の飛沫が生じる内容）を中止し、個別実施することを検討しましょう。 **目標**

※この手順書は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）の研究助成を受けて作成したものです。

採択年度：2018年度 事業名：長寿・障害総合研究事業 研究期間：2018年4月—2021年3月

課題名：長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発 研究代表者：笹原鉄平（自治医科大学）